

# 認知症短期集中リハビリテーション のアセスメントとプログラム

---

医療法人社団東北福祉会

介護老人保健施設せんだんの丘

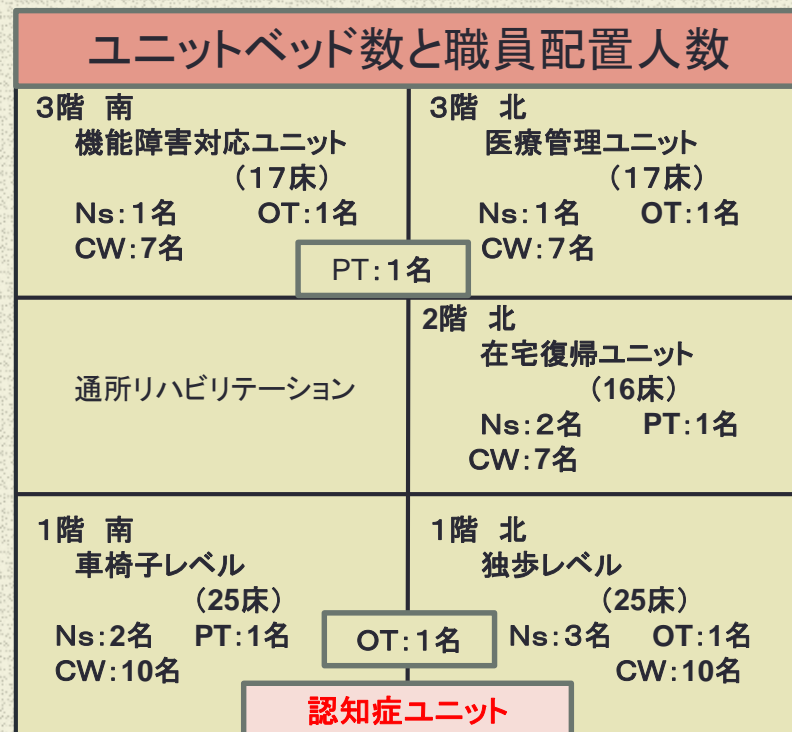
リハビリテーション課長 小野咲子(作業療法士)

宮城県仙台市  
超強化型介護老人保健施設  
せんだんの丘



# 老健部門の職員数 (R4年4月現在)

医師	常勤医1名 非常勤医1名
看護師	12名(フリー3名含む)
介護職	42名(フリー1名含む)
リハ職	OT:6名(フリー・パート含む) *パート1名(週3日 半日勤務) PT:3名 ST:1名
管理栄養士	2名
歯科衛生士	2名
相談員	5名



リハフリー:2名

# 超強化型老健の算定要件70ポイントクリア

- R4年3月現在( )は最高ポイント獲得の要件

①在宅復帰率	59.62%(50%超)	20
②ベッド回転率	9.84%(10%以上)	10
③入所前後訪問指導割合	46.67%(30%以上)	10
④退所前後訪問指導割合	56.00%(30%以上)	10
⑤要介護4又は5の割合	49.12%(50%以上)	3
⑥喀痰吸引の実施割合	7.22%(10%以上)	3
⑦経管栄養の実施割合	6.79%(10%以上)	3

+ 居宅サービス・リハ職割合・相談員割合 = 13ポイント

= 59ポイント  
= 合計72ポイント

# 介護老人保健施設について

## (定義)

介護老人保健施設とは、要介護者であって、主としてその心身の機能の維持回復を図り、居宅における生活を営むための支援を必要とする者に対し、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことを目的とする施設。

(介護保険法第8条第28項)

## (基本方針)

第一条 介護老人保健施設は、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことにより、入所者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにすることとともに、その者の居宅における生活への復帰を目指すものでなければならない。

(介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準(平成十一年三月三十一日)(厚生省令第四十号))



- 在宅復帰、在宅療養支援のための地域拠点となる施設
- リハビリテーションを提供する機能維持・改善の役割を担う施設

# 認知症短期集中リハ(入所)の算定要件の抜粋

- ①認知症入所者の在宅復帰を目的。1週間に3日が限度。
- ②生活機能の改善が見込まれると判断された者に対して、在宅復帰に向けた生活機能の改善を目的にしている。
- ③精神科医師又は神経内科医師を除き、認知症に対するリハビリテーションに関する研修を修了した医師。
- ④医師の指示を受けた理学療法士、作業療法士、又は言語聴覚士が行う。
- ⑤利用者に対して個別に20分以上実施した場合に算定。
- ⑥MMSEまたはHDS-Rがおおむね5～25点に相当する者。
- ⑦リハ記録は利用者ごとに保管
- ⑧短期集中リハ実施加算を算定している場合でも、当該加算の算定は可能。
- ⑨過去3カ月の間に当該リハ加算を算定していない場合に限り算定できる。

# 生活行為(機能)の定義

- 「生活行為」とは  
個人の活動として行う排泄する行為、入浴する行為、調理をする行為、買物をする行為、趣味活動をする行為等の行為をいう。

## 職種機能の明確化

【告示、留意事項通知[老企第36号 第2の8(12)]】

	改正前の表記	改正後の表記
短期集中個別 リハ加算	個別リハビリテーション	利用者の状態に応じて、 <u>基本的動作能力及び応用的動作能力を向上させ、身体機能を回復する為の集中的なリハビリテーションを個別に実施するもの</u>
認知症短期集中 リハ加算	記憶の訓練、日常生活動作の訓練等を組み合わせたプログラムを実施	<u>応用的動作能力や社会適応能力(生活環境又は家庭環境への適応する等の能力をいう。以下同じ。)</u> を最大限に <u>活かしながら</u> 、当該利用者の生活機能を改善する為のリハビリテーションを実施



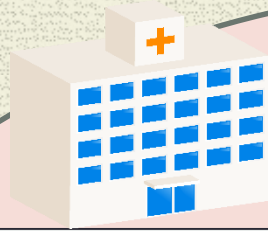
図 1.1 日常生活活動 (ADL) の概念と範囲



**表2 作業療法の目的**

対 象	目 的	ICF 項目	
1. 基本的能力 (ICF：心身機能・ 身体構造)	生命の維持と基本動作等，日常生活に必要な不可欠な心身機能を回復・改善・維持することと，失った身体構造を補完する	精神面・感覚面・発声・循環器・代謝系・ 排泄生殖系・運動面の機能 神経感覚系・神経筋骨格等の構造	
2. 応用的能力 (ICF：活動と参 加・主に活動)	対象者の個々の日常生活に必要とされる活動能力を回復・改善・維持する	個人の遂行レベルにおける右記項目	学習と知識の応用， 一般的な課題と要求， コミュニケーション，
3. 社会的能力 (ICF：活動と参 加・主に参加)	対象者が暮らす在宅・地域内での社会的活動、就労などの社会参加に必要な能力を回復・改善・維持する	社会生活・人生場面への関わりレベルにおける右記項目	運動・移動，セルフケア，家庭生活，対人関係，主要な生活領域，社会生活など
4. 環境資源 (ICF：環境因子)	活動および参加に必要な環境を回復・改善・調整・維持する	生產品と用具，支援と関係，家族親族の態度，サービス・制度・制作	
5. 作業に関する個人特性 (ICF：個人因子)	生活再建に関わる作業に影響を与える心身機能以外の個人特性の把握・利用・再設計	ライフスタイル，習慣，役割，興味，趣味，価値，特技，生育歴，病歴，作業歴，志向性，スピリチュアリティなど	

# 施設入所から在宅復帰後の流れ



- 入院による心身機能の低下
- IADLの低下によりADLの低下を招く
- 生活の継続イメージが困難となる

入所前後

## 相談員・リハ職による入所前後訪問の実施

- 生活環境の把握
- 機能低下による生活不適應の要素分析
- 「できる活動」を評価し、ケアに活かす

家族への介護指導  
在宅生活へのイメージ作り

入所中

- 退所後の生活を支える環境整備が必要
- 本人・家族・ケアマネ・訪問系・通所系 サービス等に本人の望む生活・支援方法を具体的に伝え、継続性を保証する

退所後

## 多職種による入所中の外出・外泊訪問指導

- ①初回訪問 → リハ
  - ②中間調整訪問 → リハor介護
  - ③退所前訪問 → リハor介護
- ※客観的調整 → 介護支援専門員

# 認知症のアセスメント～せんだんの丘の場合～

- 改訂 長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)
  - N式老年者用精神状態尺度(NMスケール)
  - 認知症行動障害尺度(DBD)
  - 意欲の指標(Vitality Index)
  - (興味関心チェックシート)
- 
- 初回、1.5か月、3か月ごとの認知・精神機能の評価
  - 加えて、**入所前後訪問等の環境評価** + 身体機能評価

= 本人と家族が望んでいる、ニーズの確認  
在宅復帰をする為の生活機能改善

# 入所前後訪問報告書

入所 退所	前・後 訪問報告書	年	月	日 (水)	
利用者名	様	訪問場所	自宅		
同行・同席者					
①	アプローチ	解決すべき課題			
	<p>12、15cmの段差が存在。門扉の柱につかまりながら昇降する、自分で出入りすることはないことを考えれば問題は無い。</p> <p>正面の玄関は本人使用せず。裏の中庭の縁側からの出入り。</p>				
②	裏庭への動線、本人出入り口	解決すべき課題			
	<p>本人の希望により中庭にある縁側から出入りする。今後も本人はその方法をとらさうと。</p> <p>途中に15cmと21cmの高い段差があり、つかまる部分がないため、手すりの設置または介助による昇降を検討。この際、本人が自力で玄関方向まで移動することがあるか確認必要。</p> <p>また縁側の高さが10、30、22cmとそれぞれあり、特に最初の段差部分がコンクリートブロックや発泡スチロール、コンクリートの合など統一されておらず、それぞれの固定も非常に弱い。趣味で中庭の手入れを行っていたこと、今後も手入れをする習慣は残ると考える。縁側からの出入りを自力で安全に行える必要がある。</p> <p>趾の着脱や窓の開け閉め、段差の昇降、縁側の昇降、中庭での手入れ方法や洗濯方法など、環境調整や動作の安定が必須。</p>				

④	トイレ、リビング、キッチン及びベッド	解決すべき課題
	<p>自宅内には段差がなく、バリアフリー構造となっている。床での生活が基本となる。</p> <p>トイレ内は手すりが設置してあり、使用に特に問題なし。しかし、踏みはきかなくてはならないため、何も使用せず壁際での歩行能力が求められる。</p> <p>リビングに座卓があり、左の写真の赤い座布団で日中を通す。床上動作の安定が必要。またキッチン内に簡易的なベッドが設置してあり、至り点高さ調整は困難。ベッドから床に落ちていた？という事実はあるとのこと。ベッド裏がマットレスを含めて高さ32～38cmであり、その高さからの立ち上がりが必要。また、ベッド周囲に手すりの設置を検討。</p> <p>キッチンが高いため、高さ調整のために11cmの段差(幅み面35cm)が設けられており、至り点使用しないでの11cmの段差昇降と35cmの中での昇降や機転。段差を認識しての動作が求められる。</p>	
	<p>キッチンが高いため、高さ調整のために11cmの段差(幅み面35cm)が設けられており、至り点使用しないでの11cmの段差昇降と35cmの中での昇降や機転。段差を認識しての動作が求められる。</p>	
⑤	洗面所、浴室	解決すべき課題
	<p>洗面所の使用については問題なし。本人が自分で洗濯することを想定し、椅子の設置が必要。</p> <p>また、浴室内は手すり設置がないが、入浴前にもヘルパーを利用していたの事で、今後もヘルパー利用で対応することになると考える。動作に対する介助というよりもお湯の管理や準備、後片付けなどの部分での介入。椅子が一般的な椅子であり、32cmからの立ちあがりの準備が必要。</p>	
備考		
<p>今後も1人での生活が基本となる。自宅内移動に関しては自力で可能と考えるも、火やお湯、施設管理、調理や洗濯などのIADL面の評価が必須。また、床での生活になるため、膝への負担を考慮した生活スタイルの検討も必要。</p> <p>日課として中庭の植木類の手入れや縁側からの出入りが必要となるため、この部分の評価と練習が必要。早期から評価、練習を実施していく。</p> <p>今後の身体状況と認知機能面の経過を追いながら、独居自体が可能なレベルなのか、居宅サービスの導入の検討が求められる。</p>		

# 事例 中等度の認知機能低下

○氏名： S 様 年齢： 80代 性別： 女性 要介護度： 要介護5

○診断名： **腰椎圧迫骨折・認知症**

○既往歴：両側乳癌術後、肺塞栓、脳梗塞

○家族構成： 息子夫婦と同居だが居住スペースは別で独居の状態  
息子は単身赴任中 嫁は介護に非協力的

○生活歴(受傷前)： 家事や庭作業など努力性で実施  
緩徐に努力性歩行，家事の失敗が目立つ

○入所時の状況：

廃用による体力、筋力低下から歩行器歩行介助レベル、ADLは一部介助レベル。  
また、入所時から生活上の理解、判断力低下が著明

○入所時の評価

HDS-R: 15点 / 30点

NMスケール: 29点 / 50点 (家事身辺処理 ↓、会話のつじつま ↓)

DBD: 時々見られる項目 (記憶、無関心、過眠、尿失禁)

意欲: 臥床傾向、促されてからの活動

興味・役割: 庭作業 料理 洗濯 友達付き合い (近隣)

# リハビリテーション計画書(3カ月)

目標: 家に帰りたい

## 短期集中リハビリテーション

- 身体機能及び、日常生活動作能力の評価
- 歩行状態の評価と生活場面での歩行の習慣化に向けた介入評価
- 自宅環境を想定した環境調整(環境調整下でのトイレ動作評価)
- 骨折部への運動負荷量の調整及び確認
- 筋力体力向上訓練(自主トレーニング指導を含む)
- 骨折部の痛みの状況、コルセットの着用状況の評価

## 認知症短期集中リハビリテーション

- 認知機能及び日常生活動作の手順や判断力、注意力などの評価
- 環境調整や生活リズム、習慣化の検討
- コミュニケーションや活動、余暇、趣味活動等を通して、集中できる物や役割の提供
- 家事動作や服薬管理、金銭管理の評価

# リハビリ内容

項目	内容
歩行・筋力訓練 外気浴	生活リズムの再獲得 腰痛の痛み評価、シルバーカー→伝い 歩き→杖
伝い歩きの出来る環 境	居室内での伝う環境を調整 昼夜の歩行状態について評価
洗濯の一連の動作	移動→洗濯機の使用→洗剤→取り出 し→移動→干す
調理活動(手順、包 丁)	味噌汁作り、出汁取りの順番、材料を 入れる順番
お茶入れ	電気ポットの使用有無
掃除	掃き掃除、腰痛への配慮
電話の使用	受ける、かける 操作の方法

## 認知機能

見当識(場所・時間等)、  
意欲、回想、五感への刺  
激、注意力、判断力

空間認知  
行為の習慣化

実行機能  
判断力  
集中力  
火や道具などの管理能力  
注意力  
五感への刺激



# 在宅復帰への見通し

## ○自宅生活の意向

本人:何でも自分でできる。洗濯もご飯も大丈夫。

家族:本人の望むことは、自分でやらせてあげたい。

ただ、不在にしていることが多く、協力は難しい。

## ○自宅生活に向けて解決すべき課題の抽出

### ①独居状態で、身の回りのことが一人でできるか？

- ・食事、水分の必要量確保
- ・排泄、服薬管理
- ・事故、体調不良の回避(ケガ・火災・室温管理等)

### ②管理下で行ってきたIADLが再現できるか？

- ・自宅外の歩行(ゴミ出し、近隣への外出)
- ・洗濯や調理、家電操作等の課題整理

## ○居宅サービス利用の提案

訪問介護(食事や生活支援)、訪問看護(服薬管理)、訪問リハビリ(IADLへの取り組み)、通所介護



# 様々な活動 取り組み

## 屋外活動 五感への刺激+精神活動の活性化



# 調理や手芸



役割を担う。  
その場を楽しみ満足感。  
手指の使用。  
作業工程を考え、脳への刺激。

# 調理のイメージトレーニング

冷蔵庫内の材料で食事を考えよう!!!

- ・キャベツ
- ・人参
- ・ジャガイモ
- ・玉ねぎ
- ・納豆
- ・きゅうり
- ・ウインナー
- ・トマト
- ・卵
- ・牛乳
- ・しいたけ
- ・はくさい
- ・豆腐
- ・リンゴ
- ・ネギ
- ・豚肉
- ・セロリ
- ・乾物 (わかめ、切り干し大根、大豆、ひじき など)



朝食

昼食

夕食

その他必要な食材

うどんを作ってみよう!!!

食材

材料の下準備

味付け

その他のおかず



# 家電の工夫



混乱の回避⇒より単純に



# 在宅復帰が近づき、より現実的なアプローチへ



# 軽度の認知機能低下

目標: バスに乗って買い物に行きたい

体力の維持・向上

+

IADLへの具体的な介入(時刻表・  
金銭管理・疲労の管理など)



# 重度の認知機能低下

目標: 介護指導、トイレ動作獲得

離床時間(運動量)の確保  
生活リズム

+

排泄動作への介入

